

# 前理事会不信のきっかけとなった3つの大きな問題

問題  
1

JDBA活動の長期停滞と前理事会の迷走

問題  
2

デフが蔑ろにされている現実

問題  
3

デフバスケの未来より男子日本代表監督の顔色を伺う前理事長

# 前理事会不信のきっかけとなった3つの大きな問題

## 問題 1

JDBA活動の長期停滞と  
前理事会の迷走

- ・ 2020年度定期総会の開催遅れ（8ヶ月遅れ）（理事会の怠慢）
- ・ 2021年11月に2021年度会員募集（会員期間11月～12月末）（会員軽視）
- ・ 定期総会の次週に大会、参加費不払いの会員が参加（組織運営の軽視）

## 問題 2

日本代表で、  
日本手話が、  
蔑ろにされていた

- ・ 日本手話を言語とするデフ選手の情報保障がない（取り残されて孤立）
- ・ 前監督（聴者）の指示でデフ選手が監督の口形を読み取る（手話の軽視）
- ・ 音声でのやりとりが出来るデフ選手だけが残る（デフバスケットとは何か）

## 問題 3

デフバスケットの未来より  
男子日本代表前監督の  
顔色を伺う前理事長

- ・ 前理事長「監督には好きにやらせてもらっている」（立場の逆転）
- ・ 前理事長「監督がダメだと言ったらダメ」（デフ主体性の放棄）
- ・ 前監督のYouTubeに字幕も手話通訳もない（ろう聴障者関連法の軽視）

# 前理事会不信のきっかけとなった3つの大きな問題（続）

問題  
1

JDBA活動の長期停滞と  
前理事会の迷走

- ・ ブラジルデフリンピック説明会に前理事長独断参加
- ・ 全ての情報が共有されず、準備不足でブラジルデフリンピック断念
- ・ 前理事会の怠慢によりJPC助成金が打ち切れ加盟団体から除外

問題  
2

日本代表で、  
日本手話が、  
蔑ろにされていた

- ・ 「前監督のバスケが苦痛」一部の代表選手らが前理事長に訴え
- ・ 前理事長は「前監督に伝える」と一部の代表選手らの前で確約
- ・ 今もその確約は果たされないまま、立ち消えとなった

問題  
3

デフバスケの未来より  
男子日本代表前監督の  
顔色を伺う前理事長

- ・ 「デフバスケとはなんですか？」前理事長に問うも回答なし
- ・ 前理事長と、理念に基づいた組織運営を話し合うも決裂
- ・ 前理事長降任、現理事の体制でJDBA再生を開始（2022年2月～）

# 佐知理事長体制発足、JDBA再生へ

問題  
1

JDBA活動の長期停滞と  
前理事会の迷走

- ・ 2020年度の会員数20名以下を反省し、理念を打ち立てる
- ・ 2021年度定期総会を開催、**前**理事長の辞任挨拶動画を公開
- ・ 2022年度は**前**理事会引継も全ての事業も**オールゼロ**でスタート

問題  
2

日本代表で、  
日本手話が、  
蔑ろにされていた

- ・ 『私たちはアスリートである前に、デフなのだから』
- ・ サインバスケットボールの考え方を全事業に導入
- ・ 異なる母語（言語）を持つ人たちが共生するバスケを目指す

問題  
3

デフバスケの未来より  
男子日本代表**前**監督の  
顔色を伺う**前**理事長

- ・ 2021年度までの男女日本代表の解散を理事会で決議
- ・ 強化事業の見直し（2025東京デフリンピックを目標に）
- ・ 日本代表監督やスタッフを集め、トライアウトを実施

# 会員と共にデフバスケの未来を創るJDBAへ！

活動  
1

JDBAの再生

- 佐知理事長のもと、普及／育成／強化の3本柱を中心とした運営活動
- 会員との距離を近くするため、LINEオープンチャットやZOOMを開催
- 2022年度JDBA会員120名超え

活動  
2

会員のためのイベント

- 2022年7月に第1回目男女日本代表トライアウト@福島
- 2022年8月にサマーキャンプ@福島
- 2022年10月に3x3全国大会@東京
- 2022年11月にENEOSカップ@男子／東京、女子／大阪
- 2023年3月に兵庫ミニリーグ

活動  
3

国際関係

- DIBF-AP理事に田中氏が就任し、世界デフバスケの情報交換が盛んに
- 2025年東京デフリンピックDNFに長谷川氏と大塚氏が就任
- 男女日本代表トライアウトを数度開催
- デフバスケ啓蒙・宣伝のためのパンフ作成（全ろう連より4月に刊行）

# 会員と共にデフバスケの未来を創るJDBAを阻むもの（1）

活動  
1

JDBAの再生

## 2022年4月

- ・ **前**理事会の登記更新が漏れていることが判明  
→ 司法書士を雇い、登記対応を開始（2022年4月～）

## 2022年6月

- ・ **前**理事長と前理事2人の弁護士より、6月末に通知書が届く  
→ 内容は、「**前**理事長が召集していない臨時理事会の開催は定款違反である。JDBA運営の権利返却を求む」  
→ JDBAからは、ろう弁護士の松田氏に代理人を依頼し、  
「**前**理事会の怠慢、助成打ち切り、登記更新未完了などで、理事長交代は会員定款に基づく」等の回答書を提出

2

会員のためのイベント

- ・ **前**理事長が登記更新に協力頂けないため、スポンサー活動が難しい

3

国際関係

- ・ **前**理事長が登記更新に協力頂けないため、JPC助成金がもらえない

# 会員と共にデフバスケの未来を創るJDBAを阻むもの（2）

活動  
1

JDBAの再生

## 2023年2月

- ・「通知書」の内容より前理事長の代理人より訴状が届く  
→JDBA運営の「地位事故」として現理事らが訴えられる  
→訴状の添付資料にて、前理事長の名前で登記更新済み  
→前理事長の2023年度「会員停止」を決議  
→松田弁護士を通して、和解に向けて調整中（★2023年3月11日現在）

前理事長と前理事の代理人は、

「特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会は会員のためではない」と言っており、それに対して、現理事会は下記のごとく、真っ向に反論している。

「特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会は会員のための団体である。」

誰一人取り残さないサインバスケを軸に、デフバスケの将来を本気で考え、支えている自負がある」  
よって、2022年度定期総会で、JDBAの現状をまとめた資料を公開・説明をすることにした次第である。